

三菱兵器住吉トンネル工場(跡)

施設管理者 : 長崎市
施設所在地 : 長崎県長崎市
調査見学時期 : 平成 28 年 8 月 25 日 (金)
施設概要

第 2 次世界大戦末期、戦況の悪化に伴い国内への空襲が激化してきたため、各地で軍需工場の移転・疎開・分散がなされた。

三菱兵器住吉トンネル工場は、空襲を避けるため長崎市中心部から 5 km ほど（爆心地から 2.3km）北側の住吉～赤迫間の山に 6 本のトンネルを並列に掘り、これを三菱長崎兵器大橋工場（現在の長崎大学の場所）の疎開工場としていたもので、24 時間体制で魚雷部品（航空機用）の製造を行っていた。

各トンネルは高さ 3m・幅 4.5m・長さ約 300m・間隔 12.5m でトンネル間は内部に連絡通路が作られ結ばれていた。長崎への原爆投下時点で 1・2 号トンネルは完成し、魚雷部品の製造がおこなわれ、3・4 号トンネルは貫通していたが未使用、5・6 号は掘削中であつた。

現在、トンネル入口の柵越しに 2 本（1 号、2 号）のみ見学できる。



三菱兵器住吉トンネル工場（跡）周辺



1号トンネル工場



2号トンネル工場